

業務電子化に向け取り組んでいます

原田 優太 (R2FA)

コロナ禍で、私の勤める刈谷市役所も、テレワークやワクチン接種の対応などに追われています。このような激動の中で就職し、配属されたのは公共施設の営繕に関する部署でした。

年間10本程度の工事発注・監理を担当しており、様々な案件を経験してきました。公共施設にもいろいろあり、不特定多数の人々が利用するものもあれば、学校や高齢者施設など使用者が特定されるものもあります。可能な限りコストを抑えつつ、用途に応じて最も利便性の高いものを提供する難しさを感じながら日々奮闘しています。

新型コロナウイルスの影響で業務の電子化が急速に発展していると感じています。国や自治体でも世の中の流れ（電子化の発展）にいち早く対応することは重要と考えていますが、個人情報や入札等の機密情報などセキュリティの関係でなかなか進んでいないのが現状だと思います。現在は過去に行った工事の図面を取り込んでデータ化し、どこでも閲覧できるようにする業務を行っています。若手ですることは限られていますが、事なかれ主義にならないよう、民間企業や最新の世の中の動きを常に意識しながら、ひそかに熱い思いを常にもって、良い意味で行政の慣習に疑問をいだきながら、できることから変えていけるような職員になりたいと思います。

現場の仕事も頑張っています



OB★OG 掲示板

職場に恵まれて充実の日々

奥村 雅斗 (H30MM)

入社して1年が過ぎました。眼科医療機器メーカーの株式会社ニデックで機械設計の業務に携わっています。眼鏡店によく置かれている売れ筋製品の設計や検証に関わらせていただくなど、良い経験をさせてもらっています。同時に自分がまだまだ至らない点も多く、勉強と反省の毎日です。職場の上司、先輩、同期にも恵まれ、良い職場に巡り会えたと感じています。



スポーツでリフレッシュしています

入社して以降、ショッピングモールなどに出かけた際に眼鏡店を見かけると、自社製品が使われているかどうかを遠目でチェックする癖がついてしまいました。知らず知らずのうちに愛社精神もすくすくと育まれているようです。

プライベートでは1人暮らしを始めたり、車を買ったりと、社会人になって学生の頃よりも自由度が増し、やれることが多くなりました。いろいろと制限がある中ではありますが、家でスイーツを作ってみたり、テニスに挑戦してみたりと、楽しく日々を過ごしています。

こんなご時世なので、毎年のように行っていた旅行ができないことが辛いですが、行ってみたいところ（やりたいこと）リストを作って気兼ねなく旅行に行ける日常が戻ってくることを心待ちにしている今日この頃です。

大規模プロジェクトの一員として働いています

青山 健志郎 (R1DD)

新国立競技場を手掛けた大成建設に勤めています。大学3年生の頃、中村吉男先生の紹介でインターンシップに参加したところ、施工管理の魅力にひかれ入社を決めました。

入社3年目ですでに3支店を経験しており、各工事において施工管理、計画業務と多種多様な業務に携わることができています。中でも国際支店での全長約21kmの橋梁工事は、言葉も文化も、安全に対する意識も異なる国での仕事だったため、大変面白く貴重な経験でした。自分の携わった構造物が国内外の「地図に残る」ことに喜びと誇りを感じます。

また、入社の際にお世話になったリクレーターの方や過去に配属になった作業所の上司・先輩方とは今も交友関係が続いており、仕事の悩みなどを話せる風通しの良い環境に感謝しています。

建設業界は3K（きつい・汚い・危険）のイメージが強く、人手不足に悩んでおりますが、大成建設は「働き方改革」に率先して取り組んでおり、新3K（給与・休暇・希望）の実現を目指しています。仕事終わりや休日は映画鑑賞やショッピング、旅行などをするプライベートの時間もしっかり確保できています。

精神的に業務に取り組んでいます



建設現場は常に災害や事故と隣り合わせですが、その中でいかに安全で効率的に仕事ができるかを考え、関係業者の方々とコミュニケーションを取りながら設計図をもとに精度よく実際に構造物を作り上げていくゼネコンの一員として頑張っています。

地域住民に信頼される 消防人の育成

松井 清哲 (H11K)

人のために役に立ち、やりがいのある職業に就きたいと考え、消防の道に進みました。この文章を書くにあたって勤務23年を振り返ると、これまでにたくさんの人と出会い意見交換する中で学んだこと、災害活動で身に付けた様々な知識と技術は大変貴重なものだ改めて感じています。

今は、その経験を富山県消防学校の教官として生かすよう所属長（砺波地域消防組合消防長）に勧められ、富山県広域消防防災センター／富山県消防学校の教官として着任し、学生（消防職員、消防団員）の育成指導を行っています。

指導する中で、私自身も未熟なところが多々あり、技術を教えることの難しさに悩むこともありますが、そんなときは、先輩・同僚からアドバイスをもらい積極的に指導に取り入れています。また、学生の質問や悩みは直接聞き、自らやって見せ、一緒に反復訓練を繰り返して、教えています。それでも上手くできず心が折れそうになることもあります。家族の「お父さん、未来の素晴らしい消防人を育てるため、頑張らんなん!!」の声援を受け、日々頑張っています。

着任期間は3年間、その後は砺波地域消防組合消防本部に戻ります。今私にできることを精一杯行い、地域住民に信頼される消防人を一人でも多く育てるべく指導を続けていきます。



人材育成にやりがいを感じています

競技スキー部

部員：男子7名、女子1名

西 裕之 監督 (H11K)



アルペンとノルディック（クロスカントリー、ジャンプ）はインカレで、フリースタイルモーグルは全日本選手権や世界大会で活躍できることを目標に活動しています。

少人数での活動で、種目によりレベルの差もありますが、雪上でのパフォーマンス向上のため、夏場もみっちりトレーニングに励んでいます。

ここ数年ではモーグルの選手も増えており、OBの四方選手、OGの伊原選手共に世界大会入賞の結果を出しています。現在ナショナルチームに所属している3年生の柳本選手も2020年のワールドカップで5位入賞し、来年の北京五輪を目標に頑張っています。



活躍したOB・OGたち

四方 元幾さん (H30HH)

豊田合成株式会社に入社し4年目になります。「従業員の活力促進、社内の一体感向上」を目的としてスキー競技で冬季五輪を目指すことを業務として取り組んできましたが、コロナ禍のタイミングで引退することになりました。今後は、お世話になった方々に恩返しをできるよう、生涯スポーツとして取り組んでいきます。



競技力向上を追求することは、なかなか厳しい世界ではありますが、こんな素晴らしいことはないと思います。愛工大生の活躍を楽しみに応援しています。

柳本 理乃さん (経営学科スポーツマネジメント専攻3年)

現在、女子部員は私だけですが、オフシーズンの基礎トレーニングは男女一緒に、刺激を受けています。クラブ活動のない日はパーソナルトレーニングやウォータージャンプでエアの練習をしています。

目標は2022年の北京オリンピックに出場し、表彰台に立つことです。12月から始まるワールドカップの成績次第なので、最後まであきらめずに頑張りたいと思います。

人を気にしすぎて自分の滑りに集中できなかったこともありますが、最近は自分に向き合えるようになりました。メンタル面は大事なので、西監督やナショナルチームのコーチ・トレーナーのアドバイスを、一人で抱え込まないようにしています。



伊原 遥香さん (R3HH)



国内A級大会で、私を含めた愛知県のチームメイト3人で表彰台を飾りました。基本的には競技に打ち込んでいますが、会社が行うクリーン活動へ参加するなど社会貢献活動も行っていきます。夢に向かって努力する大切さを生徒たちに伝える「夢の教室」という活動もあり、参加する予定です。

大学で初めて競技スキー部に入り、モーグルとは違った新しい発見が多々ありました。また、同じモーグル競技をしている選手もいたため、一緒に練習することができて新鮮で楽しい思い出でした。

卓球部

部員：男子10名、女子9名



鬼頭 明 監督 (H9K)



創部62年の歴史ある部として、大学の名誉をかけ、お世話になった関係者へ恩返しをする大会と位置付けている全日本大学総合卓球選手権大会（インカレ）での団体男女優勝が一番の目標です。2021年は、男子が連覇を成し遂げました。個人では全日本選手権優勝を目指しており、2021年は田中佑汰選手（経営学科スポーツマネジメント専攻3年）が3位になりました。

部に対して学園や大学からの支援と理解があり、活動しやすい環境が整っています。各選手それぞれに合うコーチから指導が受けられるようにするなど、個性をのばすような取り組みをしています。

木造 勇人さん (経営学科スポーツマネジメント専攻4年)



個人競技ですが、まわりに強い選手がいないと成長できません。その点、この部には名電中学から一緒に卓球をしてきた仲間もいて心強いです。

今年は6月から7月にかけて4週間連続で試合がありました。中でもアジア卓球選手権の選考会はハイレベルな試合でしたが、優勝して代表権を獲得できました。

台に近いところでプレーできるのが強みだと思っています。ただ、緊張から消極的になりやすい点もあり、いつでも強い気持ちで戦えるようにメンタルを鍛えることが大事だと考えています。オリンピックも視野に入れ、頑張っていきたいと思っています。

高見 真己さん (経営学科スポーツマネジメント専攻4年)



大学では自主性に任される部分も多いですが、名電中学・高校からの仲間がいて、お互いに高めあって練習ができていると思います。

7月のインカレ（団体の部）優勝が印象に残っています。2-2の状態でも5番手の自分に順番がまわり、優勝をかけた試合になりました。チームメイトが信じてくれたので、自信をもって戦い、優勝に貢献できました。「自分にまかせてください」という前向きな姿勢でコートに立つようになっていますが、実はヒヤヒヤでした。

個人戦では、愛工大は強い選手が多いので仲間と戦うことも度々で、優勝できなかったのが残念です。